

## 申し入れ書

内閣総理大臣 野田佳彦殿  
経済産業相 枝野幸男殿

2012年10月15日  
緑の党 党首 對馬テツ子  
東京都豊島区池袋本町 2-6-3

### 大間原発建設再開の中止を求めます

電源開発は10月1日から大間原発の建設再開を始めています。それは、政府の「中断している原発建設については、企業責任で再開しても良い」という指示を受けたからです。野田政権は、「2030年代に原発ゼロ」「稼働中の原発は40年で廃炉」「新規の増設はしない」としながら、原発再開を容認したことは全く矛盾していることです。

政府は福島原発事故の収束宣言を出しましたが、現地は依然危険な状態です。その収束作業にあたっている原発労働者は日々被曝に曝され、死と隣り合わせで仕事をしています。そして、放射線量の高い中で子どもは被ばくし、健康が脅かされています。にもかかわらず集団疎開や避難が一向に行われません。原発事故の影響は福島のみならず広範囲に及び、生業、財産を奪われた人々の生活再建、生活保障が未だにきちんと行われていません。汚染された故郷に再び帰ることができない人もいます。その責任を一体だれが取ったのでしょうか。原発事故の被害は筆舌に尽くしがたいものです。原発の再稼働、建設再開は絶対容認できません。

しかも、大間原発は世界で初めてのフル MOX 原発です。フル MOX 燃料にはプルトニウムの量が約 6.5 トンも装荷されるという超危険な、世界に例を見ない原子炉です。長崎原爆の 550 発以上に相当するとも言われ、緊急時、運転制御の困難性や放射性毒性の過酷さについて指摘されています。しかし、大間原発ではそれらの備えがなく、防潮堤も事故対策のオフサイトセンターもありません。また、活断層の存在も指摘されています。東洋大教授の渡辺満久氏は大間原発敷地内の活断層の可能性を指摘し、独立行政法人・産業技術総合研究所と東海大チームも、大間南西にも 14 キロの活断層があることを発表しました。この活断層「平館海峡撓曲」について電源開発は把握していません。政府はこれらの活断層について早急に調査させるべきです。まだ 38% の進捗状況で、原子炉が入っていない大間原発は、今止めるなら間に合います。事故が起きてから「想定外」では手遅れです。福島を二度と繰り返さないためにも、政府は、原発再開容認の発言を撤回し、大間原発建設再開を即刻中止するように要請します。